



新十津川望郷会

# 会報 第7号

## 第七号の発行にあたつて



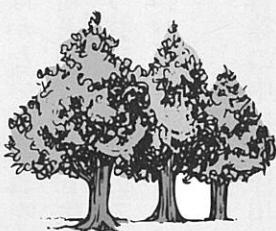
新十津川望郷会長

山本 敬一郎

写真や資料があればお貸し頂くと更有りがたいと思いますのでよろしくお願ひします。

さわやかな初夏の季節を迎えて、会員の皆様には益々お元気でお過ごしのことと思ひます。「望郷会報」も、皆様からたくさんのお原稿を寄せて頂き、第七号を発行できますことを厚くお礼申し上げます。会員はお互に新十津川を離れてそれぞれの立場で活躍して居りますが、動きの早い最近の社会で暮しているとふるさとについての記憶や印象はどうしても薄れることが多くなるように思ひます。

便利な最近の社会では考えられない辛かつたことや、苦しかったこと、楽しかったことや嬉しかったこと、ふるさと自慢などを経験されている皆さんに会報に寄せて頂くことができれば素晴らしいと思います。



新十津川町長

小畠 荘一

すがすがしい初夏を迎え、ピンネシリの山々や田園がみどり一色に染まる過ごしやすい季節となりました。望郷会員の皆様方には、常日頃、郷土新十津川町にご支援を賜り心から厚く御礼申し上げます。

昨年は、本町の基幹産業である農業が七月以降の低温日照不足の影響により、収量、品質共に低下し、農家所得の減収は否めませんでしたが、生産者をはじめ、関係諸団体の不断の努力により空知管内平均を上回る結果となりました。

しかししながら、今年は雪解けが遅く、農作業も平年に比べ遅れての作業となつて、作物の生育上、憂慮されるところであります。これから天候の回復を祈り、そして豊穣の秋を向かえることを期待してやまないところであります。

さて、わがまち新十津川町は国

の推進策であります「市町村合併」については、町の存廃に関する最も大きな問題でした。しかし幾多の協議を重ねた結果、先人の逞しい開拓精神と團結の力で築き上げた由緒あるまちを守り、自主自立で行政運営を進めることと決断したところであります。そのために今年を「行政改革元年」と位置付け、行財政基盤の強化や町民との協働のまちづくりを目指し、町民の皆様が本当に望む暮らしを実現するため創意工夫を凝らし、「しんとつかわで心呼吸。人・夢・自然」を基本テーマとして、住民のニーズに即応した施策の展開に取り組んで参ります。

ここで、大変嬉しい話題を申し上げます。昨年八月に北見市で行われた剣道中体連全国大会で、新十津川中学校剣道部の三年生が個人戦で見事、道内勢では初めて三位入賞を果たす快挙を成し遂げました。まさに奈良県十津川郷から引き継いだ「文武両道の精神」を体現したようです。この栄誉ある成績を讃え、新十津川町長賞を贈りました。

このように伝統ある文化を継承していくことは、町の存続に大きく貢献する重要な課題です。今後とも、町民の皆様の協力とご理解をいただき、新十津川町の発展に貢献してまいります。

しつつ、郷土新十津川町を皆さんの方で築き上げるという精神をより一層集結し、町勢発展のため努める所存でございます。

どうか望郷会員皆様には今後とも更なるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



新十津川望郷会会长

山本敬一郎

## 十津川移民と船、渡船

平成十五年十月、石狩川開発建設部から「石狩川船運史」が刊行された。

巻頭に田口前部長は「明治の石狩川は原始の河川で蛇行著しく、河岸から望む森は想像できぬくらい鬱蒼としていたに違いない。川の背後には現代文明も無いのである。

住み慣れた土地を遠く離れて寒さの厳しい何も知らないところに移住し、土地を拓き暮らしをたてることに賭けようとするのだから将来に対する不安は今の私達には

計り知れない程大きなもので、決死の覚悟だたと思う。にもかかわらず、その不安を乗り越えて入植した人々の精神力の強さには敬服するほかない。それを支えたものは、新天地を拓いて生き抜くのだという強固な意志のみだったのではないかだろうか。」と述べておられる。

この書籍の中に十津川移民と石狩川とのかかわりについて取り上げられているので、全文を紹介させて頂きたいと思う。

### 十津川移民と渡船

明治二十二年八月に奈良県吉野郡一帯を襲った暴風豪雨が十津川村住民を北海道に団体移住させることになる。

およそ二千五百人もの人々が三回に分けられ、その年のうちに北海道に移住してくることになった。第一回移民は同年の十月小樽港に上陸、鉄道で市来知（現三笠市）まで運ばれたあと、そこからは途中奈井江に一泊して空知太（現滝川市）まで歩いてきた。病人や老人は空知集治監（現三笠市にあつたる菊水町から滝川市街に出るには遠回りになることから利用が高く、村が営業を続けた。

屯田兵に採用され、そのまま滝川屯田兵村に住み着いた者を除き、翌二十三年六月人々は石狩川を渡つてトック原野に入地した。

### 十津川村ができる。

その時に利用された渡船場が右岸（現新十津川町）では新波止場渡船、左岸（現滝川市）では五十九号渡船と呼ばれるものである。こ

こは明治二十二年に右岸に住む早野茂平が左岸に住む村上熊治と協力して運行を始めたということだ。

当時は丸木舟を使用していた。後十五年に石狩川橋がかけられたため廃止された。

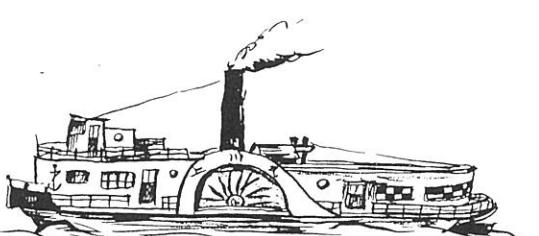
しかし、新十津川の市街地にあ

たる滝川屯田兵屋に滞在することになつた。

た滝川屯田兵屋に滞在することになつた。

一行の荷物は江別から上川丸（外輪船）により運ばれたが、川の水が少なく月形から上流は航行することができなかつたためすぐ必要なもののは囚人たちが運び、翌年必要なものなどは増水期に船で運ばれた。

バスの運行とともに利用者が少くなり明治二十五年九月に廃止された。



上川丸、鉄製外輪船60トン  
水深1m位のところも航行できた。

## 故郷の墓参の集い



札幌市

和平康伸

## 故郷の墓参の集い

常日頃より望郷会の皆様をはじめ、新十津川町の皆様方には大変お世話に成っております。心より厚くお礼を申し上げます。

私の生家は新十津川町の下徳富一号山二線二千八十四番地の二に於いて生まれました。

先祖は明治二十三年六月に集団移住開拓者としてこの地に鉄を下され以来私は四代目となります。

先代は明治二十二年八月十九日二十日に奈良県吉野郡十津川村一帯を襲った未曾有の大豪雨に見舞われて大水害と成り、家居や田畠を失つてしましました。十津川郷士は一大決心を以つて北海道の新十津川村開拓計画に賛同をした郷士六百戸で二千六百九十一人の方々により大集団の移住と成った。出発日は十月二十四日。遠くて寒い北の国北海道を目指した郷士一行は、十津川郷旗を先頭に勇んで向かう大地に未来を拓く夢と希望に満ちて共に助け合い励ましながらの長い旅路であつた事だつたと思ひます。

十津川郷旗について……文久三年七月二十五日。京都御所の御守衛にあたつていた十津川郷士に対して朝廷からのお達しがあり、御紋章付き菱十の組旗を用いるようになりました。それまで十津川郷士は①の組旗を用いていたが、神武御東征のころから一貫して尽してきました。朝廷への忠勤に対しても沙汰書によりこの御紋章の使用

十津川郷士の大集団移住者六百戸の中に、私の先祖である和平二郎一家族五人が十津川村字永井から皆様と一緒に来たのです。その時より先代達は開拓者としての幾多の困難に耐えて伐り開いた原始林も、今では立派な農地として出来上がつて居ります。四代目の私で約七十年間新十津川町に農家として大変お世話を成つて居りました。その間、農協は下徳富農協でした。郵便局は下徳富区域です。学校は中徳富区域で新十津川小学校に通いました。宗教として出雲大社新十津川分院であります。となりの菊水公園内に忠魂碑が有り、その中に私の次男兄で和平忠が合祀されて居ります。兄の和平忠は大東亜戦争に行き、南太平洋上のマーシャル群島クエゼリン島に於いて海上機動部隊として活躍中に戦死をしております。毎年六月二十日には新十津川望郷会の総会及び新十津川町の開町記念式が有りますが、総会後、菊水公園にて十時頃より戦没者の追悼式が行わ

を許されたものです。十字の先端は剣を形どつたものと言われています。

十津川郷士の大集団移住者六百戸の中での生活と開拓を治めた郷士の人達は、想像以上の苦労に耐えながら相互に協力し、励まし合い助け合いながら開拓を成功させる事を願う人生があつたと思ひます。今は花月の墓地で眠つて居ります。

先祖のお墓参りはそれぞれが別々にお参りをしていましたが、現代の子供や孫、又親族の方々に少しでも先祖の苦労と昔話を伝えるために、親族が同時に集まる事に皆で話合いをして一つの会を作りました。名称として「和平家親族新十津川町墓参の集い」と言う事にして日時については毎年八月十五日十二時に集合をする。その前に先祖のお墓参りをすませて会場へ移動をして昼食をとりながらの会合となる。会場としてはグリーンパークホテル、又サンヒルズサイイ及びピンネ庄等その他の施設を行つて会場をお借りし皆さんとそのつど会場をお借りし皆さんと親睦をはかつています。又横断幕

墓参の集いに付いて……原始林の中での生活と開拓を治めた郷士の人達は、想像以上の苦労に耐えながら相互に協力し、励まし合い助け合いながら開拓を成功させる事を願う人生があつたと思ひます。今は花月の墓地で眠つて居ります。先祖のお墓参りはそれぞれが別々にお参りをしていましたが、現代の子供や孫、又親族の方々に少しでも先祖の苦労と昔話を伝えるために、親族が同時に集まる事に皆で話合いをして一つの会を作りました。名称として「和平家親族新十津川町墓参の集い」と言う事にして日時については毎年八月十五日十二時に集合をする。その前に先祖のお墓参りをすませて会場へ移動をして昼食をとりながらの会合となる。会場としてはグリーンパークホテル、又サンヒルズサイイ及びピンネ庄等その他の施設を行つて会場をお借りし皆さんと親睦をはかつています。又横断幕

墓参の集いに付いて……原始林の中での生活と開拓を治めた郷士の人達は、想像以上の苦労に耐えながら相互に協力し、励まし合い助け合いながら開拓を成功させる事を願う人生があつたと思ひます。今は花月の墓地で眠つて居ります。先祖のお墓参りはそれぞれが別々にお参りをしていましたが、現代の子供や孫、又親族の方々に少しでも先祖の苦労と昔話を伝えるために、親族が同時に集まる事に皆で話合いをして一つの会を作りました。名称として「和平家親族新十津川町墓参の集い」という事にして日時については毎年八月十五日十二時に集合をする。その前に先祖のお墓参りをすませて会場へ移動をして昼食をとりながらの会合となる。会場としてはグリーンパークホテル、又サンヒルズサイイ及びピンネ庄等その他の施設を行つて会場をお借りし皆さんと親睦をはかつています。又横断幕

も作り毎年記念写真も撮ります。年に一度の先祖のお墓参りは皆様大変楽しみにしておられます。又新年には同様に「和平家親族合同新年交礼会」をも同様に実行しています。奈良の十津川村に私が初めて行つた、昭和五十三年の一月でした。十津川村役場の課長尾崎豊さんに大変お世話を成りました。先祖の出身地永井に行きお墓をさがしました。

小さなお墓を一基見つける事が出来ました。明治二十二年の大水害で出来たそのあとが山の中に沼と成つて残つて居りました。「私の祖母の実家は尾崎伊八の娘です。花月に尾崎伊八家のお墓もあります」又東武さんのお墓参りも出来ました。玉置神社参りもしたが、當時は車でも行けない山の上でした。まるで登山と同じでした。尾崎豊さん宅で一泊し、色々と奥さんの博子さんにも大変にお世話を成つて来ました。二度目の十津川村の訪問は出雲大社の団体観光旅行で行きましたが、今では立派な道路が沢山出来てびっくりしました。十津川温泉ホテル昂で一泊し十津川郷士の歴史を改めて見つめ

直し沢山の思い出を得る事が出来ました。

郷士の方々が新十津川の原始林の中での開拓から一世紀間に、農地の改良と基盤整備、さらに土地区画整理等の開発が立派に出来上がりました。全道二百十二市町村の中では類例のない立派な新十津川町の存在であります。

二十一世紀を迎えた今はバブルの崩壊、そして未曾有の大不況となり銀行等の倒産を始めとして大

手企業大手建設会社等又は経済会産業等々が倒産する不況であり、又社会情勢問題も沢山有り、少子高齢化が進み又市町村の合併問題が沢山有りますが、故郷新十津川町は二世紀に向かつてこれらの難問題と苦境を乗り切つて明るい住みよい豊かな立派な故郷として益々繁榮されて一層の発展を心より願うものであります。

最後になりますが、新十津川望郷会の皆様方の今後の益々のご発

## 家庭の平和なくして幸福はない

恒例になつてゐる本会の「新年恒例会」は、去る一月三十一日午後三時半より市内のすみれホテルで開催された。

当日は、会員の出席が四十六人と例年と大差はなかつたが、何人かの新顔や久しぶりの出席者もいて談笑する声が飛び交つていた。また、郷里からは小畠町長さん、松葉議會議長さんが、公務多忙のところ出席していただき、町の現状や郷友会への励ましのことばをいただき感謝申し上げます。私共は、郷里の様子をお聞きすることを大変楽しみにしており今回も皆が聞き入つておりありがとうございました。



展とご健康を心よりご祈念を申し上げます。

### 札幌新十津川郷友会 「新年交礼会」を開催



郷友会 会長  
高 桦 政 義

題については、会長よりつぎのよ

うな報告があつて了解された。

札幌には、郷友会の関連団体として、四つの地域会即ち中央会、吉野会、大和会、花月会がありまして運営をしております。「どうだろうか、そろそろ郷友会のもとに一本化しては」という声もチラチラ出てきたこともあつて、四

地区の代表者を含む郷友会の役員会で協議した結果、「当面は、各地区の充実をはかることとし、その上で考えてはどうか」ということで話がまとまり、引き続き課題として持つていくこととした。

懇親会に入り、カラオケ、ビンゴなど楽しい一時を過ごし、最後に今年は豊かな実りの秋を迎えるよう全員で願つて、午後六時閉会した。

総会に入り決算の承認があつて、今ひとつ宿題になつてゐる統合問

## 私の余暇との出会い



岡田 功

弓道と共に四十年。出会いは札幌開発建設部空知えん堤建設事務所（雨竜町）時代に町の弓友達と始め、秋の新十津川祭り玉置神社奉納射会からはじまってその冬札幌に引上げ弓道場で練習を重ねた。札幌の開基百周年記念祭には流鏑馬の的持ちで参加。札幌神社の奉納射会には毎年出場しながら四段取得、帯広に勤務して帯広弓道協会で十勝、東部地区の仲間にめぐり会い練習をして五段と鍊士の称号をもらいました。その後全日本弓道大会（毎年春京都で行われる）に出場。全道弓道鍊教士大会（旭川）鍊士の部で優勝、全道6地区大会（苫小牧）で十射皆中の思い出。その後函館に転勤、西部地区弓道連盟の友と練習し、東北対抗戦（青森）に出場、全道弓道鍊教士大会（札幌）鍊士の部二度目の優勝、札幌に帰つて中央地区鍊教士会の理事長を長年勤める。全道

錬教士大会（札幌）鍊士の部三度目の優勝。全道に弓友が出来た事が我が人生の財産と思う。札幌市とミュンヘン姉妹都市（冬季オリエンピック）交流で（平成四年）弓友達に大的式の披露を兼ねて、旅行は妻と他十五名、ミュンヘン（オクトーバーフェスト）祭でビールを飲み、言葉の通じない街を見学ユーバン（地下鉄）で料金の支払い方がわからず無錢乗車をしたり、古都で信心深い建築物、輝き、優雅、美しい響き、芸術の鑑賞が思いでに成ります。帰りはチャーターバー便の許可が下りず、北極経由で白夜の航路でした。その後、ミュンヘンからも来道して友好を深めております。現在同期で西井勝明鍊士六段（滝川市）に。

囲碁は自称三段、現役時代お昼休み時間に二番勝負で覚えた囲碁で全開発大会に出場、各課でのリーグ戦を企画担当して級位を上げて、退職後、開発局大会は参加資格が有段者であることから、初段で登録、町内会、北区の囲碁会に参加して、開発局大会（平成十三年）二段で大会優勝、今は毎週木、土曜日、他に新十津川囲碁会に参加

し、囲碁を楽しんでおります。  
・パークゴルフは平成十三年から始めて、今は二つの同好会に入つて月例会に参加。ドライブ中に場所が見えたたら挑戦して回つております。平成十五年から札幌郷友会と新十津川の交流対抗戦が毎年十月十日。トロフィーカップを目指して挑戦して下さい。望郷会の皆さんから参加連絡をお待ちしております。



交わした。丸尾真一君等。  
・その他麻雀（毎週木曜日）、百人一首、卓球、町内対抗の運動会活躍中。  
・同じ趣味をお持ちの方ご連絡（〇一一一七六二一六七七三）お待ちしております。

（〇一一一七六二一六七七三）お

・その他麻雀（毎週木曜日）、百人一首、卓球、町内対抗の運動会活躍中。  
・同じ趣味をお持ちの方ご連絡（〇一一一七六二一六七七三）お待ちしております。

## 私の昭和二十年



札幌市(望郷会理事)

玉堀光夫

私は、昭和七年生まれですが、昭和二十年の、十二歳から十三歳にかけての一年間のことについて思い出すまさに書きましょう。

昭和二十年三月二十三日、新十

津川国民学校初等科六年を卒業し、(担任は 蜂谷一先生)、四月一日、北海道立滝川中学校に入学しました。当時中学校へ進学するためには試験がありました。私が受験した時は、口頭試問と体操の実技、体格検査でした。

他に学業成績などの内申書もあつたと思います。

口頭試問では

質問1、「滝川中学校を受験した

目的は何か」。

質問2、「B29(米軍の爆撃機)

の太平洋上における基地はどこか」。

質問3、「太平洋上におけるB29

の基地はグアム島であるが、

グアム島から東京までの距

離は何kmである。B29の速度は時速何kmである。B29時間何分で飛来するか」。

はグアム島から東京まで何

度は時速何kmである。B29切売つておらず、全て上級生から譲り受けました。私たちの学年は前年の入学生より一クラス多く入学しましたので教科書が全員には渡らず、私は英語の教科書が当たりませんでした。当らない教科書は級友から借りて全部書き写しました。

使用する教科書は、本屋では一冊売つておらず、全て上級生から譲り受けました。私たちの学年は前年の入学生より一クラス多く入学しましたので教科書が全員には渡らず、私は英語の教科書が当たりませんでした。当らない教科書は級友から借りて全部書き写しました。

授業は、小学校の時の教科の他に、英語、漢文、物象、教練が加わり、先生は旧制大学高等師範学校出身者が多く、優秀な学友と共に楽しい中学校生活が始まりました。

授業以外では、毎朝、朝会の時

全校生徒が屋外運動場に整列し、

上半身裸になり乾布(たわし)摩擦をしたことや、週に一度これも

全校生徒が屋内運動場に集まり、

校歌、応援歌、拍子の練習をしました。上級生の怒声に怖い思いも

しましたが、元気に練習しました。

このようにして中学校生活にもしましたが、元気に練習しました。

ようやく慣れた頃、六月十日から

八月十日までの六十日間、泊り込みの援農が始まりました。援農先

は滝川郊外の水田農家で、二年生、

三年生と私の三人でした。

朝早くから夕方陽の沈むまで水田の中に入り、除草機押しが主な農作業で、手や腰が痛く辛い思いをしました。

援農先は、三十日で別の水田農家に移り、稻の周りに伸びた稗を抜き、丸めて足の裏で土の中に埋め込む農作業でした。今手許にある通知箇では、中学一年生の時の私の身長は、一四四、八センチ、体重は、三三、七キロとなっていました。

援農先は、三十日で別の水田農

田の中に入り、除草機押しが主な農作業で、手や腰が痛く辛い思いをしました。

朝早くから夕方陽の沈むまで水田の中に入り、除草機押しが主な農作業で、手や腰が痛く辛い思いをしました。

か援農先で風呂に入った記憶がありません。多分濡れた手拭いで体を拭いていたのでしょうか。もう一つ忘れられないのは虱に喰われ痒い思いをしたことです。

このようにして六十日間の援農も終り、三日間の夏休みの後、八月十四日から二学期が始まりました。実に六十四日振りの級友との再会でした。皆真黒な顔をしていました。そうして迎えた翌八月十五日、全校生徒が屋内運動場に整列し、天皇のラジオ放送を聞きました。「耐え難きを耐え」、「忍び難きを忍んで」、が今も耳に残っています。

これで日本はアメリカに負けたことを知り、「神国日本は絶対に勝つ」と信じていたのにアメリカに負けた驚きと悔しさ、これからどうなるのだろうという不安が、十三歳の私の頭の中を駆け巡りました。

それにも関わらず夏休みが三日間だったのか、日本の伝統行事であるお盆の前日から何故登校させたのか、地方の一中学校長が八月十五日の終戦を知っていたとは到底考えられず、今もつてわからな

いままです。援農で遅れた勉強を一日でも早く取戻そうとしたのでしようか……

終戦から二ヶ月が経った十月十日から十一月十日までの三十日間、

二年生と二人で北竜村へ秋の援農にいきました。北竜村和です。この年は、空知地方は不作で青く真つ直ぐ立った稻を刈つたことを思ひ出します。終戦後も援農があつたことはあまり知られていませんが間違ひなくあつたのです。

さて、秋の援農の五日目、家から「母危篤、兄とともに帰れ」、の電報が届きました。

兄は、隣りの碧水に同じく援農に行つっていましたが、一緒に家へと急ぎました。バスが北竜の市街を発つとき、引卒の先生から、「今家から電報が届き母が死んだ」ことを報されました。享年五十二才でした。血圧が高いことも知らず脳卒中で一晩である世へと旅立ちました。

その母は、私が援農へ行くとき、「元気で行つてきなさい。頑張るんだよ」と言つて手を振つて送つてくれました。これが母との最後

の別れでした。その時の母の胸中は知ることはできませんが、これから援農に行き辛い思いをするであろう我が子を不憫に思つたことでしょう。

以上のように、私の昭和二十年は、「滝川中学校入学の喜び、援農の辛さ、敗戦の驚きとこれからどうなるのだろうという不安、そして母の急死の悲しみ」と、絶対に忘れる事のできない年となりました。

思えば、生れる前年、昭和六年の満州事変に始まり、昭和十四年（小学校一年生）の日中戦争、昭和十六年（小学校三年生）の太平洋戦争、昭和二十年（中学校一年生）の敗戦と、正に十五年戦争の真只中で幼・少年期を過しました。

今、自衛隊がイラクに派遣されていますが、自衛隊の出発の様子がテレビに写し出される度に、私が小学生の頃、出征兵士を「日の丸」の小旗を打ち振り、「万歳三唱」し、駅頭から送り出しましたが、その時、送る者も送られる者も皆、「天皇のため、國の為死んでもります」と言つていたことが思い出されます。そして多くの

若者が二度と故郷の土を踏むことはありませんでした。同じことを繰り返してはならないと思う今日この頃です。

## 新十津川・札幌郷友会 交流パークゴルフ大会

札幌郷友会パーク  
岡田 功  
同好会担当



快晴の秋、平成十五年十月十日サンウッドパークゴルフ場において二十七ホール、主催サンヒルズ・サライの開設五周年記念行事の一環として、銘酒金滴と自慢料理で故郷を語る夕べに誘われて、新十津川パークゴルフ協会（SPGA）会長佐藤力夫氏、会員二百数名の内二十名と札幌郷友会（望郷会含む）二十名との交流対抗戦（トロフィーを賭けて）を行い札幌がハンディ頂き第一回優勝となりました。札幌の監督は増谷副会長が努め、個人戦のベスグロ賞は男佐藤力夫九十九パーを七十二・女性ハンドイ十・寺島尚子八十二でふたりのプレーオフを行い三ホールめ

そのあと金滴酒造に寄り酒造の歴史等について説明を聞き、見学と試飲でいろいろな種類があることを知りました。

参加者にはパークの初心者もいたが、「楽しかった来年も参加します」との言葉と賞の野菜等を土産に終わりました。

参加者にはパークの初心者もいたが、「楽しかった来年も参加します」との言葉と賞の野菜等を土産に終わりました。

で寺島尚子の優勝(カップ持ち回り)とになりました。他にホールイントワン賞一人、飛び賞、参加賞に地元の米、野菜等の詰め合わせを頂き、会食時の交流にも金滴酒造の後援で沢山の銘柄酒を飲み、なごやかな交流で毎年十月十日に元気でお逢いし続けて開催出来る会を終わり、最後はカラオケで楽しい一時を過ごしました。

二日目は郷友会だけで石狩川河川敷パークゴルフ場で十八ホール各組対抗戦を行い、汗をかいた後のスイカを食べた事はみんなの思いでの一つになつた事と 思います。



## 伝記(系譜)



札幌市さっぽろ大和会  
相談役

### 石本料詰

今回より私の自叙伝を投稿させて頂きますが、本文に入る前に石本家の系譜を記させて頂きます。

石本家は一八〇九年治承四年、安徳天皇、清和天皇の平安時代(京都御所)今より約八百三十余年前の清和源氏・藤原南の血流(統)を受け、特に源頼光(将軍)の血脉強く、藤原南との血縁は当時やや遠のいていた。士族の流れをもつ石家は源氏より平家の時代、そして鎌倉・室町時代(足利)その後安土・桃山(織田・豊臣)時代を経て徳川時代へと戦乱・平和の

中で徳川中期には、播磨(兵庫県)備前(岡山県)志摩(三重県)と石本家(系)は、主、君を替え乍ら分散、一七九〇年十一代將軍徳川家斉の寛政四年の時代……そもそも「石本久助」の頃は、越後(新潟県)中浦原郡川内村大字夏針四拾六番戸(現在の村松町)仙見谷一帯に野武士とも百姓とも云えぬ姿で山拓きに汗して源氏の流れの姿なく一族は居をかまえていた。勿し明治の代に入り同族の増闊に疑念をもつ本流(本家)の長男、国藏(私の曾祖父、当時三十二才)は墳墓の地去り難きも、父、末藏、母ミカを残し明治三十一年七月十四日、妻キク(二十九才)長男隆藏(十一才)次男湯藏(八才)二女トヨ(七ヶ月)の四人を連れて新天地を求めて開拓の鉤を北海道樺戸郡新十津川村字上徳富一、三五〇番地を永住の地と定め草鞋を脱ぐ。その後不撓不屈の根性で、創樹陰層たる原野を拓き、村に越後出身の石本ありきの礎を築く。

尚私の祖母マツは国藏の妹で諸情に依り二十一年後の大正七年国藏(一九一九)大和小学校八十周年によせて、私の母)を連れて渡道、新十津川

次回より自叙伝の本文に入ります。

## 擧筆

### 望郷の詩

己が身の一生を夫婦山の空に  
青春日々を想いて

リラ冷えの札幌にいではや二十余年  
夢の如しもわが生涯をかえりみる

産湯浴みし尾白利のあの川

想いしのあの師あの友

遠く近きし学舎との霜月ははや八十年  
ピシネの峰は今もけだかし

私の母)を連れて渡道、新十津川

村字上徳富五百九十七番地、尾白利川の瀬音する「長新年」の土地に小作人として草鞋を脱ぐ。「姓名」の起源等も奈良時代以前の「大化の革新」頃と云う説もあるが、確かにたる伝承及び文献もなく定かでなくここでは省くとする。勿論戸籍法が発令されたのが、明治に入つてであれば栓方なきと思う。この度の(系譜)作成にご協力下さった新潟県々庁古文資料係。:

村松町郷土資料館長。:当地の清光寺(石本家の菩提寺)の住職本

間康哉氏に心より敬意を申し上げます。

次回より自叙伝の本文に入ります。

# 平成15年度新十津川望郷会総会

平成15年6月20日午前9時30分、新十津川町農村環境改善センターにおいて、平成15年度新十津川望郷会総会が開催されました。総会には、会員34名が出席し、山本敬一郎望郷会長のあいさつに続き、小畠莊一新十津川町長が歓迎のあいさつを述べました。

恒例により山本会長を議長に選出し、議案の審議に入り、承認事項として平成14年度事業報告、決算報告並びに監査報告がなされ承認されました。続いて決議事項として平成15年度事業計画案、収支予算案及び会則の改正案が事務局の提案どおり可決されました。

総会終了後、午前10時から行われた戦没者、物故功労者、消防殉職者の追悼式が行われ、参加者全員で黙祷を捧げたあと、小畠莊一新十津川町長が式辞を、四釜隆遺族会長、山香靖時消防団長等らが追悼の辞を述べ、戦没者、物故功労者、消防殉職者に対し献花が行われました。

開町113年記念式典では、奈良県十津川村長更谷慈禧様、奈良県十津川村議会副議長松實豊隆様、並びに参議院議員橋本聖子様も出席され厳粛に式典は執り行われました。来賓や町民の代表者が祭壇に花束を献花する途中、突然の雨が見舞われ、急遽、式典会場を新十津川町総合健康福祉センターの「ゆめりあホール」に変更しての挙行となりました。移動後には、全員で町民憲章を朗読したのち植田満新十津川町助役による告諭の奉読、笛木隆新十津川町教育長による碑文朗読が行われ、最後に山本敬一郎新十津川望郷会長の万歳三唱で式典は締めくくられました。

平成15年度の新十津川町表彰贈呈では特別功労表彰として安藤君明様、功労表彰者（自治功労）として、村上忠義様、岡下勇様がそれぞれ受賞されました。また60年以上新十津川町に在住する満88歳の開拓功労者26名の方々に感謝状が手渡されました。

農村環境改善センターで行われた懇親会には、多くの方々にご出席を賜り、参議院議員橋本聖子様にご挨拶をいただき和やかな雰囲気のなか終了いたしました。



## 新十津川望郷会役員名簿

役職名	氏名	住所	電話番号	備考
顧問	小畠 茂一			町長
	松葉 孝文			町議会議長
会長	山本 敬一郎			砂川支部会長
副会長	安田 麻夫			
	高棹 政義			札幌郷友会会長 札幌花月会会長
	上杉 孝儀			
	丸谷 金保			
理事	谷本 旭			
	前川 庄作			
	増谷 俊秀			郷友会中央会会長
	玉堀 光夫			郷友会中央会副会長
	和平 康伸			
	高桑 和行			さっぽろ大和会会长
	藪内 豊			さっぽろ吉野会会长
	岡田 功			札幌郷友会事務局長
	柳沢 隆義			
	藪内 英之			
	杉村 修			深川支部支部長
	辻本 弘道			留萌支部支部長
	谷口 次雄			釧路支部支部長
監査	上杉 天道			
	大久保 宗利			
事務局長	植田 満			助役
事務局次長	笛木 隆			教育長
	佐川 純			総務課長

### 編集後記

新十津川望郷会会報第七号を発刊するにあたり、役員並びに会員の皆様にはご投稿のご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

来年の第八号の発行にあたり、多くのご投稿をお待ちしております。

(原稿用紙を送付させていただきますので、事務局まで電話等でご請求くださいますようお願い申し上げます。)

**新十津川望郷会会報**  
**第七号**

二〇〇四年六月二十日発行

発行 新十津川望郷会

〒073-11103

新十津川町字中央30-1番地1

新十津川町役場内

事務局長(新十津川町助役)

植田 満

☎ 0125-176-1213

印刷  
留萌印刷株式会社